法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
作成 (所管課)	環境農林水産部 水産課

〇 経営目標設定の考え方

ミッション 基本方針 戦略目標と成果測定指標(中期経営計画上の目標値) 1 栽培漁業への理解と効率的な栽培漁業の ① 栽培漁業センター事業の充実 • 稚魚放流尾数 ・大阪府栽培漁業基本計画に基づき、種苗生 (大阪府栽培漁業基本計画・中期経営計画に基づく 産、中間育成及び放流事業を実施。近隣府 ヒラメ・キジハタ・アカガイ) 県と積極的な連携等を図り、より効率的な 【28.2万尾(H30実績)→30万尾(R3)】 栽培漁業を展開する。 ・栽培漁業センターの見学や放流事業等の体 ・ 稚魚歩留まり達成率 験を通じて栽培漁業や水産資源への理解に 〔129.0%(R2実績)→129.0%(R3)〕 〇水産物の安定的な供給を行うとともに 海域環境の保全の役割を果たす 努める。 • 環境と調和に配慮した水産動植物の増 殖を図る ・将来にわたって持続可能な制度として いくため、法人運営の安定性の確保 ②法人運営の安定性確保 ■ 大阪府の施策 • 余剰種苗譲渡収入 【19.969千円(H30実績)→40.000千円(R3)】 2 法人運営の安定化 ・「水産業」の振興 ・種苗生産コストの削減 より効率的・効果的な事業実施を図るととも 【59,104千円(H30実績)→57,896千円(R3)】 に安定的な運営に努める。 ③管理費の抑制 【27,320千円(H30実績)→20,907千円(R3)】

法人名

公益財団法人 大阪府漁業振興基金

〇 令和2年度の経営目標達成状況及び令和3年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

		,													
戦略目標	成果測定指標	新規	単:	ウエイト	R1 実績値	R 目標値	R3目標値	ウエイト		営計画 ~R3)	R3目標設定の考え方 (数値の根拠)				
194 H 194	SAN STANKE THE PAR	規	位	(R2)		2 実績値 〔見込値〕	NO LI IN IL	(R3)	R3目標値	最終年度 目標値	※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載				
① 栽培漁業センター事業の充実	稚魚放流尾数		万尾	50	28.3	28.0	30	50	30	30	ヒラメ、キジハタ、アカガイの3種を対象とし、H31.4に改定した中期経営計画の放流数量を目標とした。				
						28.0					社会日 四の 水川 双重で口(木) で				
	法人経	営者	の考	え方(取組	且姿勢・決意)						戦略目標達成のための活動事項				
 									○第7次大阪府栽培漁業基本計画(平成27~令和3年度)の遂行						
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点 〇平成27年度から始まった第7次大阪府栽培漁業基本計画(平成27~令和3年度)の新規の放流魚種についての採卵方法や稚魚の育成技術、放流適地の把握などの 知見を蓄積する。 〇生産・放流技術が確立した魚種については、生産コストを削減するための技術の開発、他府県との連携を進める。 〇新たに取り組む魚種については、適地や効果把握のための放流に努める。									○栽培漁業センター事業充実のための施設、体制の検討 ○近隣府県との連携 ・稚魚の餌となるワムシの安全な確保 ・余剰種苗交換等効率的な栽培漁業の展開 ○第7次計画対象魚種の生産・放流技術開発の推進 ・ヒラメについては、従来行っていた親魚の仕立て、採卵を行わず、春期に稚魚を購入することで、冬期の使用燃油の削減等、効率的な飼育を行う。 ・キジハタについては、目標放流数10万尾を安定生産させるための効率的な親魚からの採卵、種苗生産に努める。 ・アカガイは、30㎜大型種苗の放流を行うことにより、放流効果の						
活動方針	○平成27年度から始まった第7次大阪府栽培漁業: ○本事業を円滑に実施するため、施設更新や体制 ○大阪府、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究り放流効果の高い健全な種苗の生産を行い、資源 (業務分担) >大阪府: 栽培漁業基本計画の策定及び進捗管理 >研究所: 栽培対象種放流後の効果の調査研究、 >基金: 栽培漁業基本計画に基づく種苗生産放	維 所増、新、新	・構築 を図る ・構築	に留意する 術センターと らとともに、大 業推進協議: 重苗生産放	の業務分担、連 に阪府が中心とな	携によって、円滑に って、増大した資源	栽培漁業を推進 の付加価値向上		こおいては研究が	所と連携し、よ	- アカガイは、30mm大型種苗の放流を行うことにより、放流効果の向上を図る。				

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新単規	ウエイト	R1実績値	R 目標値	R3目標値	ウエイト	中期経 (R1~		R3目標設定の考え方 (数値の根拠)	戦略目標達成のための活動事項
75 口 17 以中以中	从不然之日体	規位	(R2)	八大横爬	2 実績値 〔見込値〕	(K3)	(R3)	R3目標値	最終年度 目標値	※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	現る日日本在外シバーシック日刊 デス
① 栽培漁業センター事業の充実	稚魚歩留まり達成率 (実績歩留まり率(*1)/計画歩留まり率(*2))				129.0		129.0 20	20 —		昨年度から継続してヒラメ	稚魚の餌となるワムシの安定確保や 栽培技術力の向上等による、効率的、 効果的な種苗生産・放流の実施
	(*1)R2実績歩留まり率=放流尾数/種苗生産 尾数=64.5% (*2)府栽培漁業基本計画の歩留まり=50%	%	20	126.8	129.0	129.0			_	稚魚の購入を抑制しつつ、 必要な放流数を確保	
Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、											
	余剰種苗譲渡収入	Ŧ	H 10	26,699	38,000	40,000	10	40,000	40,000	放流目標を生産する際に できる余剰種苗の生産量 により目標値を設定	採卵親魚の仕立て、稚魚の選別等技術力の向上による生残尾数の増加及 び譲渡先の拡大
② 法人運営の安定性確保			10		×[18,493]	40,000	10				
	TE MAIL TO THE WAY TO	-∓F	П 10	59.040	56,895	48.757	10		57.896	種苗生産計画及び生産方 法の変更による人件費等	R1年度から取り組んでいる一部魚種 の種苗生産方法の見直しによる生産
	種苗生産コストの削減		円 10	58,049	[48,757]	48,737	10	57,896	37,890	の見直しにより目標値を設 定	の種田生産方法の見直してよる生産コスト削減を継続
② 佐田建の 柳州	oc to a	-	П 10	27,566	21,100	99.994	10	90.007	00.007	栽培事業場との兼任によ	1.4.建 古改建位仅建心判决
③ 管理費の抑制	管理費	千	円 10		×[28,864]	28,864	10	20,907	20,907	る人件費等の見直しにより 目標値を設定	人件費、事務費等経費の削減

【凡例】

- ・☆はR3年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名 公益!

公益財団法人 大阪府漁業振興基金

■ 目標値未達成の要因について

(1)

R2年度の	単位	R2年度の	R2年度の
成果測定指標		目標値	実績値〔見込値〕
余剰種苗譲渡収入	千円	38,000	(18,493)

[2]

R2年度の	単位	R2年度の	R2年度の
成果測定指標		目標値	実績値〔見込値〕
管理費	千円	21,100	(28,864)

未達成の 要因と分析 ・R2年度は、水槽の半分について年度後半(R2.10~3月) に改修工事を実施しており、その工事をしている間も、残り半分の 水槽は稼働しているため、余剰種苗の譲渡収入は中期経営計 画の目標どおり見込んでいた。しかし、種苗生産初期に与える餌 料(プランクトン)の培養が不調であったため、餌料の確保が十 分でなく計画していた余剰種苗の確保ができなかった。

未達成の 要因と分析 ・R2年度においては、以前まで別であった栽培事業場長と総務課長を兼任とすることにより、法人全体における人件費の削減を図った。その栽培事業長兼総務課長の人件費については、R2年度当初、栽培事業費(種苗生産コスト)での計上を予定していたが、顧問会計士の指摘により、管理費で計上することとなったため、当初の目標よりも人件費分が増加したもの。

今後の 改善方策 ・R3年度の生産については、十分な初期餌料の確保に努め極力生残尾数の増加を図りR2年度の実績を上回ることとしたい。・なお、昨年度に引き続き年度後半は改修工事により水槽の約半分が使用できないが、早期に出荷できるよう譲渡先との調整や販売先の新規開拓を行い、収入の増加を図っていく。

今後の 改善方策 ・R3年度は、栽培事業場長を他のポストで兼任することにより、 R2年度に引き続き法人全体における人件費の抑制を図っていくが、人件費を管理費で計上するためR3年度の目標値の修正を 行うこととする。

法人名 公益財団法人 大阪府漁業振興基金

■ 令和2年度実績比マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R2年度の 実績値〔見込値〕	R3年度の 目標値	
稚魚歩留まり達成率	%	129.0	129.0	

(2)

成果測定指標	単位	R2年度の 実績値〔見込値〕	R3年度の 目標値	
種苗生産コストの削減	千円	(48,757)	48,757	

マイナス (現状維持) 目標の考え方 ・現在保有しているキジハタ親魚量や水槽の規模、種苗生産の 技術水準を考えると目標値は概ね限界値であると考えられ、R2 年度実績値に対して現状維持の数値目標設定とする。

マイナス (現状維持) 目標の考え方 ・R3年度は、R2年度に実施した兼任による人件費削減などは 新たに見込めないことから、R2年度実績値を目標とし、種苗生 産方法の見直しによるコスト削減の継続に努める。

法人名 公益財団法人 大阪府漁業振興基金

■ 令和2年度実績比マイナス(現状維持)目標の考え方について

[3]

成果測定指標	単位	R2年度の 実績値〔見込値〕	R3年度の 目標値
管理費	千円	(28,864)	28,864

成果測定指標	単位	R2年度の 実績値〔見込値〕	R3年度の 目標値

マイナス (現状維持) 目標の考え方 ・R3年度は、栽培事業場長を他のポストで兼任することにより、 R2年度に引き続き人件費の抑制を図る(栽培事業場を兼任 するポストについては、2事業場の統括を行うという観点から総務 課長から事務局長へ変更)。

また、事務費等経費の削減も引き続き行っていくが、金利の低迷などの厳しい状況にあるため、**R2**年度の実績値を目標とし、この数値を下回るよう努める。

